

# 生命環境農学科

募集予定

10人

わたしの  
AO入試  
(現 総合型選抜)



## 海外で見た貧困問題のリアルに突き動かされて

高校時代、フィリピン、ベトナム等で語学学習やフィールドワークをしたことから、開発途上国の貧困問題に興味を抱きました。鳥大農学部の国際乾燥地農学コースは僕の志望にピッタリ。しかもAO入試なら、海外での経験を生かすことができます。迷いはありませんでした。1次面接の練習では、話す内容を丸暗記するのではなく、ポイントを洗い出し箇条書きにして頭にインプット。あとはその場で肉付けしながら話すようにしました。本番は東京会場で受験。少しでも近い場所で受験できたのは助かりました。予想外の質問がきたけど、自分自身のことだから答えに困ることはありません。自信を持って、堂々と話すのが一番ですね。

## グループ討論はメンバーと力を合わせて臨機応変に

2次の課題論文は、面接対策と同じく、要点を箇条書きにしてアウトラインを構成、それから詳しい説明を書き足していきました。時間は十分にあるので、じっくりと推敲しましょう。グループディスカッションでは、メンバーに専門高校の人がいたのですが、専門的な見解は当然彼らのほうが強い。だからそこはお任せし、僕はそれ以外の観点で意見を出していこう、と考えました。進捗状況を把握しつつ、お互いに協力し合って結論にたどり着くことが何より大事だと思います。

現在は、農業技術の普及を軸にした東南アジア地域の生活向上について研究中！貧困地域の農村の一世帯でもいいから所得を上げる手助けをしたいと考えています。

4年 うめかわ だいち 梅川 大地さん (札幌市立札幌開成中等教育学校 出身)



「とうふちくわ」は予想外の旨さ  
豆腐で作った「とうふちくわ」は鳥取の郷土食。豆腐嫌いの僕ですが、食べてみたら美味しくてビックリ！生姜入り、カレー味など種類も豊富。お気に入りにはネギ入りです。

全文は  
Webで!



## 第2次選考

## 選抜のポイント、面接・論文等の出題例等

- 2021年度総合型選抜がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
- 2022年度総合型選抜が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して  
求める力

生命環境農学科では、自ら積極的に学び、傾聴力と協調性を持って学んだことを実践で応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文	『学び方には、「受動的」な方法と「能動的」な方法があります。高校での経験をふまえ、両者についてあなたの考えを1,000字程度で述べてください。』という課題について、記述するものでした。
グループディスカッション	『新型コロナウイルスの世界的流行が終息したと仮定します。その時、人々の価値観、生活、経済などは流行前と比べてどのように変化していると考えられますか。みなさんの考えを取りまとめてください。』というテーマについて、グループディスカッションを行いました(90分)。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。

## ●選抜方法と求める能力の関連

選抜方法	思考力・判断力	表現力	主体性	協働性	農学の課題解決に対する意欲
2次(課題論文・面接)	○	○	◎		◎
2次(グループディスカッション)			○	◎	